

喫煙と血中脂質値、血糖値との関連性は内臓脂肪の蓄積量によって異なる
—日本の長期縦断研究から

喫煙は、動脈硬化や糖尿病のリスク因子であることは知られている。現在喫煙しているのか、過去に喫煙していたかの違いにより、脂質プロファイルや血糖値への影響に差があるのかはよくわかっていない。本研究では、喫煙習慣と腹部内臓脂肪の蓄積量が血清脂質値や血糖値に影響を及ぼすのかを検討した。

日本の長期縦断疫学研究（NILS-LSA）に参加した42～81歳の男性1,152例を対象とし、内臓脂肪の蓄積量（100cm²未満またはそれ以上）で分け、さらに喫煙状況（非喫煙者、過去喫煙者、現在喫煙者）で3群に分けた。対象者のうち、脂質異常症の治療を受けていない835例の血清トリグリセライド値（以下、血清TG値）について評価したところ、内臓脂肪の蓄積量が多い群では、血清TG値150mg/dL以上の人の割合が、非喫煙者（18.8%）と喫煙経験者（36.4%）に比べ、現在喫煙者で有意に高かった（47.3%）。一方、内臓脂肪の蓄積量が少ない群では、喫煙状況で血清TG値に差はみられなかった。また、対象者のうち、糖尿病治療を受けていない877例の血糖値について評価したところ、内臓脂肪の蓄積量が少ない群では、HbA1c値5.6%以上の人の割合が、非喫煙者（6.3%）に比べ、現在喫煙者（17.9%）と喫煙経験者（14.9%）で有意に高かった。一方、内臓脂肪の蓄積量が多い群では、HbA1c値5.6%以上の人の割合は、非喫煙者（29.6%）および現在喫煙者（31.5%）に比べて喫煙経験者（19.6%）で有意に低かった。

したがって、喫煙習慣と内臓脂肪の蓄積量は、血清TG値やHbA1c値と関連するが、喫煙とこれらのパラメータとの関連性の強さは、内臓脂肪の蓄積量により異なることが示された。

出典：Journal of Epidemiology. 2016; 26(4): 208-215